



鹿児島県志布志市

古森 健次

年齢 : 46歳

営農類型: 施設野菜 (ピーマン)

経営構成: ・本人  
・妻

## 就農のきっかけ

茨城県で15年間育苗関係の仕事をしていましたが、自分でもピーマンの栽培をしてみたいと思っていました。ただ、茨城県では農地の確保が難しかったので、ほかの地域を探しているうちに、農業のイベント（新・農業人フェア）で、志布志市農業公社の研修が充実していることを知り、家族4人（妻、子供2人）で移住することを決めました。

## 就農時に活用した資金（就農準備・開始資金、経営発展支援事業等）

就農準備資金は生活費と研修費に活用し、経営発展支援事業は、トラクターや管理施設などの購入に活用しました。また、ハウス導入には鹿児島県の活動火山周辺地域防災営農対策事業を活用しました。補助金がなかったら、一個人での新規就農は厳しいと思います。

## 現在の経営状況、課題について

前職でピーマンの育苗の経験があることから、育苗（10a当たり1,000本）を行い、30aのハウスで、反収16tを安定して収穫することを目指しています。収穫したものは100%JAに出荷しています。

就農1年目は収量も多く良かったのですが、2年目は土壤に問題があったのか、生育が芳しくなく地域の平均的な反収までいかない状況です。

現在、なぜ収量が落ちたのか、どこに力を入れなければいけないのかなどを研究しながら、安定した収量が確保できるよう、しっかりとした技術を身につけようと思っています。

## 地域とのつながり

JAのピーマン部会に所属していますが、勉強会や現地検討会に参加し技術向上につなげています。

地域には農業公社の研修卒業生の先輩がたくさんいらっしゃるので、よく相談や見学をさせてもらっています。また、困ったことがあったら曾於畑地かんがい農業推進センターや農協の指導員の方に相談するとともに頻りに巡回に来ていただき、とても頼りにさせていただいています。

## 新規就農者にむけて

志布志市は農業公社をはじめ、新規就農には良い環境が整っていますので、たいへん助かりました。

新規就農をサポートするために、国や県などの様々な支援事業が用意されていますので、自分にあった事業をうまく活用しながら就農されたほうがよいと思います。

## 今後の目標と取り組みについて

まずは「安定」が第一で、現在の経営規模を維持しつつ、浮き沈みが極力少なくなるよう技術を身に着けたいと考えています。

決意をもって就農したので後悔しないよう、精一杯頑張ります。